

# 旧制県立今津中学校の開校

## 仮校舎での開校

令和2年に創立百周年を迎えた県立高島高等学校は、大正9年（1920）4月8日、高島郡初の中等教育機関・旧制県立今津中学校として開校しました。今津の地に中学校を新設することが正式に決まったのは、同年の2月で、入学式はその2か月後という慌ただしさでした。当然、校舎の建設工事はまだ着工にも至っておらず、



昭和初期の県立今津中学校

入学式と6月に行われた開校式は、当面の仮校舎と定められた今津尋常高等小学校（今津204番地、辻川通り沿い）で行われました。新入学者は男子80人、教員は校長を含む5人という規模でのスタートでした。

## 中学校新設の候補地

明治19年（1886）に公布された「学校令」では教育は国家の発展や繁栄のためにあるべきという理念が明確にされ、小学校の就学率が上昇した明治時代後期になると、数の少なかつた中等学校の追加設置を求める声が大きくなっていきました。

滋賀県では、大正8年（1919）の県議会で、これまで県下に彦根と膳所の2校しかなかった中学校を、3校増設することが決議されました。これを受け、高島郡内では、中学校新設の候補地として今津町と大溝町が名乗りを上げました。翌9年の2月6日、県は神崎郡に八日市中学校、東浅井郡に虎姫

中学校、そして高島郡に今津中学校を新設することを発表しました。高島郡内では、大溝町の他に安曇村付近も候補地として名前があがっていましたが、「校地全てを町から寄付する」という条件を提示した今津町が、県立中学校を設置する最適地と考えられたようです。

## 校舎の建設

早期の校舎建築を見込んで仮校舎で開校をしたものの、大正9年4月は戦後恐慌の影響を受けた経済不況に全国が陥っていた時期で、当初予定された敷地の確保や町民からの寄付金集めは困難を極めました。開校時の教員の一人で、後に2代目校長となった中村長太郎氏が記した文章によると、

開校当時は中学生用の机も椅子もなく、発注しようにも近くに製造をしている工場もなく、対応をする教員達は多忙を極めたということです。

大正10年4月、ようやく現在の高島高等学校の場所である今津中学校新築工事が始まりました。工事は5か年にわたって行われ、教室がある本館のほか、理科室や武

道場、寄宿舎など、全ての建築が終了したのは大正14年3月のことでした。

## 第1回の卒業式

大正14年3月5日、完成した校舎で第1回卒業証書授与式（当時の中学校就学年数は5年）が挙行されました。滋賀県知事、高島郡長、県議会議員、高島警察署長、郡内町村長、郡内小学校長等が来賓として出席する他、多くの祝電等が届く盛大な式典であったようです。

文化財課 ☎（25）8559

**編集感** 年度末を迎える時期になりました。仕事や勉強などいろんな場面で締めくくりを迎えられると思います。

今回の特集は、高島市地域福祉計画です。これは、すべての人々が地域、暮らし、生きがいをともに創り、高めあうことができる「地域共生社会」の実現を目指すための計画です。

これからも続く、人と人との関わりを大切にしながら新しい年度を迎えたいと思います。(M)



広報たかしま

令和5年

3

月号

No.278

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課  
〒517-8501 滋賀県高島市新旭町北畑5の10番地

☎0740(25)8000(代)  
http://www.city.takashima.lg.jp  
✉t-info@city.takashima.lg.jp